



代日本の文学

井上 靖集

〈監修委員〉

伊藤 整

井上 靖

川端 康成

三島由紀夫

〈編集委員〉

足立 卷一

奥野 健男

尾崎 秀樹

北 杜 夫

(五十音順)

学習研究社

現代日本の文学

33

全50巻

分割払価格 39,000円

現金価格 35,500円

檀 一 雄

織田作之助 集

田 中 英 光

昭和45年11月1日 初版発行

昭和48年5月1日 十版発行

檀 一 雄

著 者 織田作之助

田 中 英 光

発行者 古岡秀人

発行所 株式会社 学習研究社

東京都大田区上池台4-40-5

郵便番号 145 振替東京142930

電話 東京(720)1111 (大代表)

印刷 大日本印刷株式会社

中央精版印刷株式会社

製本 中央精版印刷株式会社

本文用紙 三菱製紙株式会社

表紙クロス 東洋クロス株式会社

製函 日本紙パルプ商事株式会社

*この本に関するお問合せやミスなどがありましたら、
文書は東京都大田区上池台4丁目40番5号(〒145)学研
「ユーザー・サービス本部事務局」現代日本の文学係へ、
電話は、東京(03)720-1111 内線352,353か、東京(03)
727-1600へお願いします。

© 1970 Printed in Japan

0393-164 633-1002



洪作は初めて天城を越え
自分の知らぬ他国へ行く
いう旅情で、気持はすっ
り濡れたようになり、そ
した旅情の中で若くして
った優しい叔母のことを
えていた。「しろばんば



伊豆湯ヶ島にある水車小屋
〔しろばんば〕

長野部落の向こうにある小
い峠を越えると、隣村の上
見部落になるが、その上大
部落にはいったところにあ
小さい平坦地の筏場かたばたで、毎
四月の桜の花の時期に、草
馬が行なわれる慣わしだ。
筏場のわさび田

〔しろばんば〕







ふたりは、それぞれひとりずつ別々に持越の部落へはいった。文字どおりの山懐ろに二十軒ほどの農家が散らばっていた。持越には洪作の父や唐平の父の姉にあたる人物が嫁いでいる家があった。

持越部落(「しろばんば」)

祖父の林太郎の住んでいる棚場はその持越からさらに半里ほど山へはいったところにあつて、字の名というより、山中の地名であるといったほうが当たっていた。山仕事をする人たちの小屋が一二軒あつて、そこに林太郎もまた小さい家を作つて住んでいた。

天城山麓(「しろばんば」)



海を見降ろす坂道まで来ると、そこで休んでしばらくの間、津の部落を見降ろしていた。洪作は今まで彼が知っている場所では、ここがいちばん美しいところではないかと思った。

伊豆三津浜（「しろばんば」）

玉碗が千何百年か眠っていた安閑陵の上にも、戦国興亡の波は打ち寄せているわけで、時雨に濡れてそこを歩いていると、そんなところに多少の感慨はあった。

大阪府古市にある安閑陵

（「玉碗記」）





试读结束：需要全本请在线购买：www.ertongb.com

福島県 檜原湖



現在は細野も大沢も檜原も長瀬川の中流が岩石と泥土に埋まったためにできた大きな湖の底に沈んでおり、秋元



磐梯山噴火でできた五色沼の一つ
みどろ沼　　（「小磐梯」）

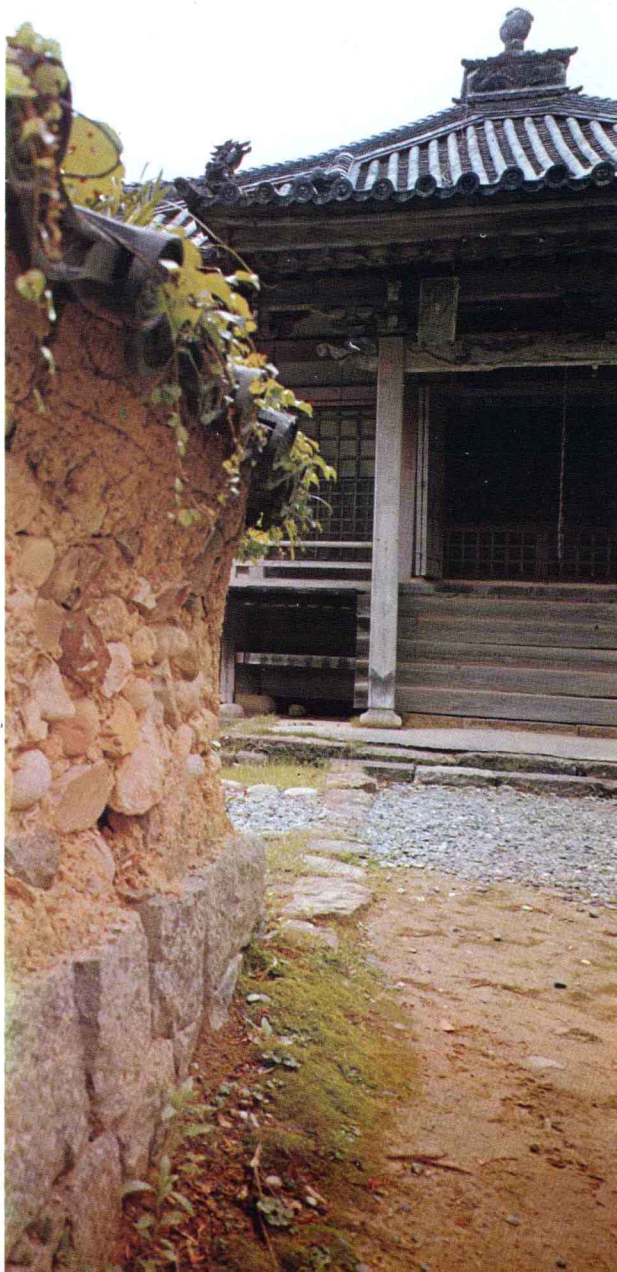


裏磐梯の中腹にある銅
沼。五色沼の一つ
〔小磐梯〕





和歌山県浜の宮に現存す
補陀落寺（補陀落渡海記





上人渡海を描いた那智権
曼荼羅・熊野那智大社所
（補陀落渡海記）

